838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

高木 清和源氏 本三川
又 〃 〃
又 〃 〃
住吉
又 本三川
都筑
高林 清和源氏 〃
今川流
又 〃 本甲斐
又 本近江

高尾 清和源氏 本甲斐
畠支流

高木判官信光
七世

重正 高木七郎右衛門
生國參河

廣正 高木九助 旅後守
生國三河
永祿元年戊午奉仕
大神君數励軍勲食邑遠州
天正十二年甲申致仕

根岸信輔氏寄贈
昭和八・一〇・八 寄贈 帝國圖書

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

根岸信輔氏寄贈

昭和八・一〇・寄贈 帝國圖

清和源氏

高木 本國三河 紋杵違鷹羽

高木刑部信光
七世

高木七郎右衛門
重正 生國參河

高木九助
廣正 生國三河
永祿元年戊午奉仕
大神君數励軍勝倉邑地
天正十二年參木政仕

筑後守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

元和二年丙辰十二十六九
号高樹院殿心誉宗安居士

正綱　高木七郎右衛門　喜左衛門
　生国三河
　永禄年参仕
　大神君数度軍功
　天正十九年辛卯陽三百八
　慶長十四年己酉九廿二歿年七十三
　号智隆院殿清誉淨峰居士

正信　高木新助　喜左衛門
　女
　寛永十九年壬午六二九
　始授

天正十一年癸未生於遠州
慶長十四年己酉健文遺跡賜三百石為大番組之伝馬守
同廿年乙卯大坂両乱時属土岐山城守組伏見御番
元和六年庚申六十五歿年三十八　寺長福寺
号順智

女子　細井金兵衛正則
　妻
　慶長元年丙子四月九日梅岸院
　号浄誉妙意
　立国寺

正長　高木喜左衛門
　女
　妻
　慶長十四酉年三月廿日歿
　元和六年庚申継遺跡賜知行三百拾石
　天和二年壬戌正月九日寺
　号正寿院殿見誉珠林善信

為十万石奉安部招津文組寛永九年三月賜 黄金五十両
同十年三月二七加二百石合賜五百拾石
明暦三年丁酉十二月朔為同組頭加二百俵合賜七百拾石
寛文二年二月十五為御先手弓頭
延寶六年戊午九月四日病辞為寄合同年十二月廿五日
賜年俸三百俵同八年庚申正六月七日二等抽斧院
号智法院啟春養住真一齋居士

女子
婚 寛永十五年戊寅六月廿六日

正照 高木三左衛門 喜右衛門
女

慶安元年戊子生於江戸
寛文七年丁未十二月廿二日屋住為御書院番田中大隅守組
同九年己酉十二月廿一日賜三百俵延寶二年甲寅二月五日従番
同三年乙卯十七月朔同六年丙午十二月廿六日
自領三百俵賜又隠居料
貞享五年戊辰五月六日為桐間番同年七月五日為御小納戸
元禄元年戊辰十二月四日御預弓松平伊賀守同二年己巳二月五日
御預弓松平加賀守出羽守
同年七月廿三日致事抽斧院号萬照院殿月山融心居士

女子
子 銓木九左衛門 養
延宝七年己未三月廿六日浮水貞幻童子

正永 高木又四郎
母

生於江戸
元禄元年戊辰十二廿四日御預于久保平三郎同二年己巳七四又正
死去故與高小次郎俱御預于織田源七
後 御免賜三俸 為士番諸井戸對馬守組
寶永三年丙戌十一十二一死于
号善立院殿方譽真光居士

正純 高木小次郎
母同

生於
兄同御預

某

去和二年癸亥三六
于著真音寺

某

正純 高木三左衛門
母

寛

延寶五年丁巳生
寶永三年丙戌十二廿二歳同三百俵初門而列坐大久保加賀守傳之
為中番諸井戸對馬守組
享保九年甲辰十九為御書院番松平内匠頭組
寛保元年辛酉五十三九年
号教應院殿池誉和玄居士

元禄十三年庚辰十七六
号清覚浄幻童子

寶永三年丙戌七二又
号冷學惠悦童子

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

正興　高木隼之助

生於江戸
寛保元年辛酉、
傳之爲中書請
延享三年丙寅七月廿三日三百俵旨聞而御先手列
弓躍性院殿安養淨室屋

正　高木又四郎

生於江戸
延享三年丙寅　　廿日三百俵旨聞而御先手列
傳之爲中書請中修理亮職中宝暦九年己卯
宝暦十二年壬午二十六爲定御書院番士四番組
明十二年癸未十二廿七日病卒爲中書請

正方　高木　　三九左内

生江戸宝暦五年乙亥
安永
同九年庚子十二九死年廿六
号興安院殿雄山義詮居士

正東　高木

喜左衛門
實閑宮庄五郎
重每

二男

正

高本恒太郎

女

正

高木

實田姓號後改正男

童名幸吉

生誕記

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

正紹 高木九助 甚左衛門

女

生於參州
天正十一年癸未洗家督領
同十九年辛卯賜朱地四千石慶長十年乙巳歟
元和七年辛酉為武州忍城城主卿忍城番領與力十四人
寛永九年壬申賜 御茶物奉同年八六為御書院番組頭
加賜七百石
同年九十一死

正次 高木九兵衛

嫡

筑後守

生於元
天正年中孝仕
大神君同十九年辛卯賜采地
台徳公御使番大坂両度供奉
為御目付同八年未四五加判
為御持筒頭同年七廿五增七
台徳公御廟造営中詰切勤賜帷子等物金五枚
同十六年己卯
慶長元年丙申
元和老中勤同十年
同二年 十二月十六死

正
女
高木九兵衛

孝建部世次寺跡
正保四年丁亥九月八歳

生於江戸
寛永廿年癸未六月十六部屋住
正保二年乙酉十二月八歳三百俵

正則　高木邑左門
　妻

生於江戸
寛永九年壬申正月四千七百石

妾九助

正道　高木左兵衛
　妻

元和三年中為御書院番酒井雅楽頭忠世寄騎賜三百俵
寛永十年壬申二百石加賜五百石後稲葉伊勢守組同
御物頭高木書記瀧川長門守組同
貞享元年甲子四月六日

正女

正晶

正純　高木半右衛門
　妻　内藤

生於江戸
慶長元年甲子七十二跡目五百石菊間御老中列坐
加賀守傳之 為小書院番之役能登守組
元禄二年庚午五月六日為御書院番頭
同十年丁丑二月二日為桐間御番同十一年戊寅二月廿日
為小書院番頭 同十五年壬午二月廿二日
新知為遠江山倉開寺与

高木左内
女

生於江戸
元禄十五年壬午閏九跡目五百石菊間御老中列坐
佐渡守傳之 為小書院番之役 能登守組
享保四年己亥三月七日為御書院番 井上讃岐守組
同十五年庚戌九月高進物番出役 松平伊豆守傳之
寛保二年壬戌十月八日為御徒頭 同年十二月
寶暦四年甲戌五月六日病辞為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

高木左兵衛
正晴
寶暦四年甲戌九月跡目五百石菊間御老中列坐 長門守
傳之 為小書院番之役 能登守組
同五年乙亥二月九日為御小姓組 武田豊前守組
同十五年乙酉二月廿日為御徒頭 同年十二月
安永二年癸巳十月廿日為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

生於江戸
寶暦四年甲戌九月跡目五百石菊間御老中列坐 長門守
傳之 為小書院番之役 能登守組
同五年乙亥二月九日為御小姓組 武田豊前守組
同十五年乙酉二月廿日為御徒頭 同年十二月
安永二年癸巳十月廿日為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

高木左内
女

生於江戸
元禄十五年壬午閏九跡目五百石菊間御老中列坐
佐渡守傳之 為小書院番之役 能登守組
享保四年己亥三月七日為御書院番 井上讃岐守組
同十五年庚戌九月高進物番出役 松平伊豆守傳之
寛保二年壬戌十月八日為御徒頭 同年十二月
寶暦四年甲戌五月六日病辞為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

高木左兵衛
正晴
寶暦四年甲戌九月跡目五百石菊間御老中列坐 長門守
傳之 為小書院番之役 能登守組
同五年乙亥二月九日為御小姓組 武田豊前守組
同十五年乙酉二月廿日為御徒頭 同年十二月
安永二年癸巳十月廿日為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

生於江戸
寶暦四年甲戌九月跡目五百石菊間御老中列坐 長門守
傳之 為小書院番之役 能登守組
同五年乙亥二月九日為御小姓組 武田豊前守組
同十五年乙酉二月廿日為御徒頭 同年十二月
安永二年癸巳十月廿日為寄合 同年廿四日
葬中目向金剛寺与 覺了院殿天真自性居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

同六年丙子十九為進物番同七年丁丑正十五為駒飼
肥後守任同年六六依願進物番徳元同八年壬午二病
病以辞為中書請川口能登守子配同十二年乙卯致仕
天明二年寅正十没年
号禅智院殿得道慧心居士

貳　高木松次郎　幸金剛寺

女

正時　高木右内　始龜太郎

女子

妾

生於江戸

勝井七右衛門政德女

寶暦十二年壬午十二廿九
松平右京大夫傳之為中書請川口能登守子配
安永九年庚子三十九為御書院番組頭

女子　勝

定政　花井伊右衛門

女子

為花井伊右衛門　養子

安永六年丁酉六十四没幸金剛寺
子成證院殿修覺智光大姉

正行　高木伊三郎

寅　大澤隼人　男

妻母

再妻　御先手　高木左京　女

安永八年巳年生於江戸
寛政十一年卯年三枚御賀養子
文化七年申寅十三以被　御定仕為御小性組
賜三百俵

養子　養子　養子

高木兎太郎

母

正

高未長助　長吏　九助

女建部弥次右衛門政脩女

生於江戸
万治二年庚子十二月五日始
天和二年壬寅十二廿一家督四千石外五百石於同心
為寄合同年甲子二十家督御礼御目見献銀馬代
宝永二年乙酉十月九日従五位下侍従賜時服三領織
元禄七年庚午七月五日駿府加番同年九月十五日御暇賜時服三領織
同四年辛未十月五日駿府献天立三御太刀銀馬代
同十五年壬午九月十五日駿府御暇賜時服三
加織同十六年癸未十月五日駿府献毛氈十枚銀馬代
享保二年丁酉十月九日致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正明　高木宇右衛門
　妙同

正保四年癸生於江戸
寛文七年丁未十二廿一新規為御書院番三枚橋津雄勝三百俵
同八年戊申八月廿八日於府在番同九年己酉正月廿日
延寶六年戊午八月廿八日於府在番同七年己未十九歳
天和三年癸亥十二月九日兄九助家督相續
同四年甲子二十拜謝　献御太刀銀馬代後告病辞為寄合
元禄十三年庚辰十二月五日致仕号草野
正徳五年乙未六十八　元年六十九歳
号忠正院殿武山良勇居士

致仕草野

正秋　高木兵庫　宇右衛門
　妙

生於江戸
元禄十三年庚辰十二月五日家督七百石相續
享保十年乙巳正月廿日於御書院番大久保豊前守組
延享二年乙丑九月為御徒頭同年十月廿日
宝暦七年丁丑十月七日致仕
号清徳院殿安叟宗居士

妻淺田山城守正忠女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

正肥　高木内記　始兵庫
妻 薩田山城守正宗女

生於江戸
宝暦七年丁丑十二月　改頁七度
為小普請、本丁之節ニ
同八年戊寅六ニ為御書院番伊澤播磨守組
御先手弓組酒井元衛門附傷之ニ而
明和七年庚寅六十六ニ而
弓瑞光院殿宗和巌浄明居士

女子　荒川主計　造政妻
嫡　薩田又右ヱ門
女子　妻同　寿

正　加藤右膳
嫡　高木左兵衛　為同姓左内ニ養子
三男 正暉　妻同

正雄　高木左京
妻

生於江戸
明和七年庚寅九　海首七百石
傷之為小普請
安永九年庚子十二月為御書院番松平和泉守組

浅井甲次郎
女
正室 加藤傳左衛門
女

為浅井次右衛門養子

為加藤熊藏養子

中高久五郎 三左衛門
女

為中高作左衛門養子

正 高木市之助
女

生於江戸

高木鉄之助

高木伊之助

高木笹五郎

高木酒之丞

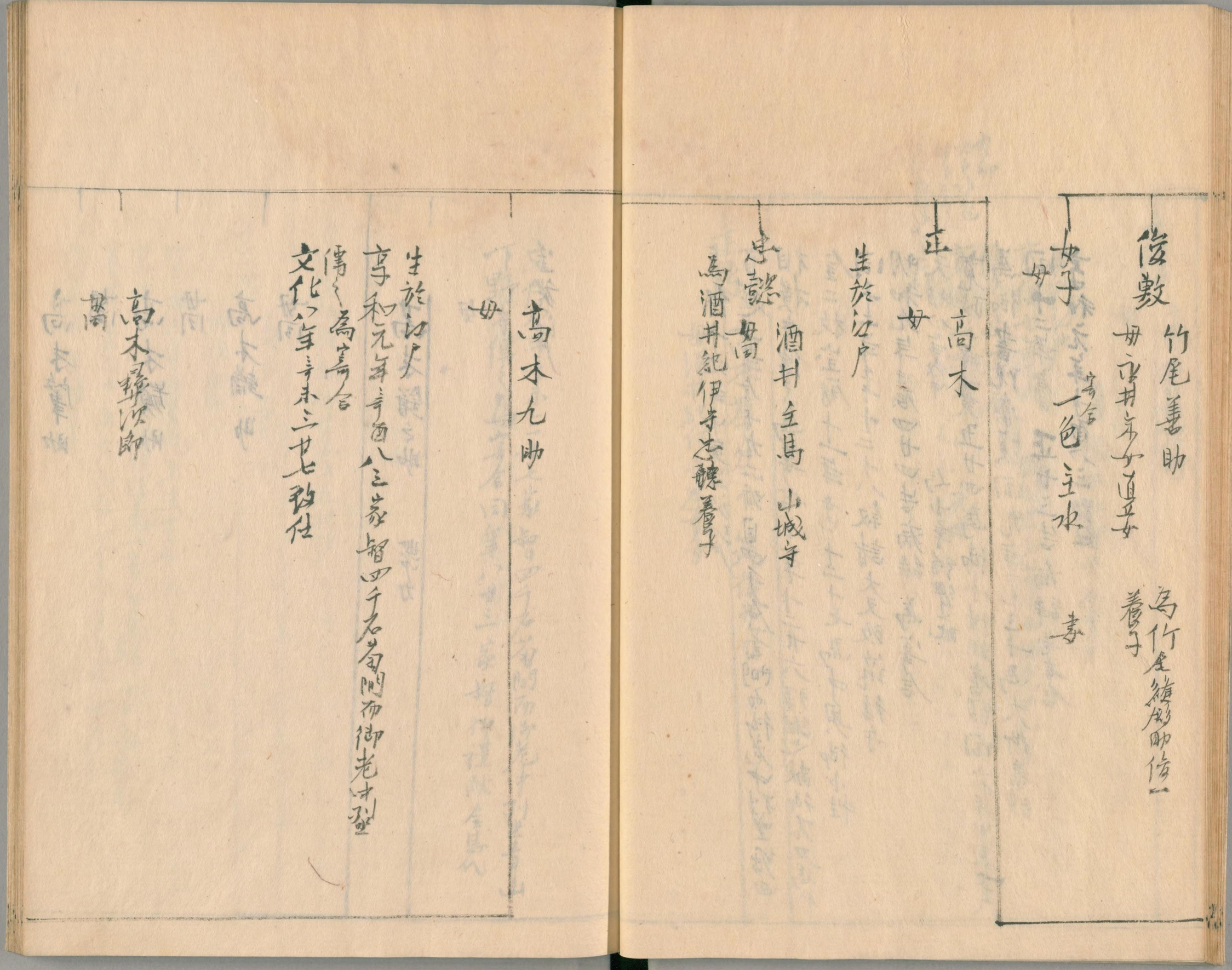
安

生於江戸　宝永六年己丑十二月七日　御目見
享保三年戊戌十九歳相州石堂門而御老中列坐水野
和泉守傳ぐ為当時之誉物　前伊豆守領同年閏十四歳相伝
献御太刀馬代金之枚
同十一年丙午十七為中使　同年閏十四歳相伝
御老中列坐水野和泉守傳ぐ
同十九年甲辰二月廿四日卒　法名円光院殿

正信　高木長次郎
　女
　　享　酒井紀伊守忠
生於江戸
享保廿年
卒
葬於
傳く為寄合
寛延二年庚午　九年

正昌　高木帯刀　筑後守
　女　酒井紀伊守忠
　　享保十九年甲寅生於江戸
寛延二年庚午九二跡目四千石蔀門而御老中列坐
相模守傳く為寄合同年十二月六日謝之献御太刀馬代
金二枚宝暦十一年辛巳十二
同十二年壬午十二十七為中奥御小性
同十三年癸未十二十八叙諸大夫改筑後守
明和九年壬辰四廿四告病辞為寄合
天明八年戊申
寛政二年庚戌五廿四為御小性組番頭同六年丙寅十二六
為御書院番頭同九年己酉十二
同十二年庚申　正廿三告病辞為寄合
享和元年辛酉八三致仕

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

高木肇助
嗣
高木巍助
嗣
高木蟠助
嗣

高木鏞之助
女

生於江戸

帶刀

文化八年未三十七家督四千石前同而御先手列坐青山下野守傳ク高木吉右衛門御禮獻金高代

源姓

高木　李國二河　紋丸鷹羽

元慶　高木清左衛門

台徳公御代賜苗字依玉人扶持

士安　高木安兵衛

妙福永禮

寛永二年四月九日生年若
若年而仕梁山修理亮吉
寛文八年戊申五月九日卒年四十三
与兵衛尊源寺

元明 高木十郎右衛門
智

寛永十九年壬午六月五日於江戸右
組父元慶之跡為御徒賜七十俵合賜百俵五口
同廿年癸未十二月一加二十俵
元禄七年甲戌二七為定代御門添番同九年丙子九十為定
御徒目付組頭同年十二月二加百俵
同十三年庚辰七十九長崎表御勘定吟味役賜料二百俵
手代給金事同年九州長崎滞留中賜目録
同十三年庚辰十二月二日豊前宝永三年丙戌九年
六十五寺社奉行遠山左衛門尉殿

元房 高木伊兵衛
智

元知 高木方助 高光元房
智 智子

元知 高木方助 彦右衛門
智子

妻 川北氏物美作守直武長女
明暦四戊年六生年廿
元文三年九
与孤共尾張侯行明之年

正保二年乙酉四十四生年
寛文五年乙巳十二月廿日俵五人扶持之内稲葉喜乃与
備後同十年庚戌十四江戸火事同十二年壬子七月廿
二十七

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
高木佐太郎
女 高木武兵衛妻女

女子
延寶八年六月生
正徳三年卯四月廿三日
主計頭組子儀二千石
元文四年未二月廿五日
于別源堂當居士

女子
伊藤七郎左衛門伊賀妻 連

延寶五年丑十二月生
元禄六年酉六月廿五日
時陸奥大塚氏子井村祖祝女婿
三日八之原内大同十四年寅十二月
殁改宝永四年亥十月 光現居加州御
出云後ノ髪ヲ長詮院

女子
菅田十左衛門
養子

女子
菅田
元寛

女子
毛屋代氏女

元 高木彦三郎
　　毘沙門

生ば
元文四年七月六
日卒去葬往

元 高木島五郎
　　毘沙門

生ば
安永二年巳四月朔日卒去葬智頂院妙性日信比丘

元禄十五年壬午三十九生忠
享保八年癸卯九年廿二日忠
一年辛丑永良院妙性日信比丘

為十善信女也享九即位

元頼　高木三次郎　十郎左衛門
　　毋田氏民

元禄二辛巳四十生子名
宝永三辛酉四五歳目二百俵前御老中列迄移元
但鳥寺傳ク為小普請組并寄合頭組
正徳二辛巳六十八為小十人組頭野権次郎組頭
享保十二辛未八歳死年三十九　弟等
子純清院快道勇宣居士

元敷　高木安之助
　　毋山氏
生於江戸
享保十二辛未十四歳目二百俵前御老中列迄移野

元義　高木半之丞　内蔵助　十郎左衛門
　　毋江川氏

　　高木半之丞　善次郎
　　毋

元　高木半之丞
　　毋

延享三年丙寅四廿四死高等
子自性院冷堂妙玄大姉

和泉守傳ク為中奥番大目迄四郎左衛
同十八年辛丑正月九為中奥小姓元文五年庚申五ヶ為
常甲名遊留番寛保四年甲子正廿二帰番元ホ十人組
延享二年乙丑同十二ヶ病辞為寄合
同三年丙寅五廿四死　　高等
子頂徳院切外別傳居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

延享二年乙丑十一月十九日任
同三年丙寅八月廿日侍從
爲中書令
明和四年丁卯十　元年廿二日薨

高木善次郎
元如
貞
貞

源姓
高木　本國

紋九内違鷹羽

法名法橋如慶
寛文十年庚戌六月廿五日
寺

法名法眼如慶
画工
帝喜之仍召出賜年俸二百俵爲御醫師並叙法眼
寛永二年乙丑四十九年
与国龍院法眼昊慶居士

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

孝保　住吉内蔵允
妙

生於江戸
宝永二年乙酉四月廿日二百俵菊間而御老中列
傳之為小普請

太田新十郎
習

子　高太

上　甚之助

寿

弘親　住吉忠蔵
妙

生於江戸
享保十八年癸丑十二四歳相二百俵菊間而御老中列
相手左近将監傳之為小普請
明和五子年四廿一死年
与力篤院真月秀允居士

寛守　住吉内記
妙
納書畫工家

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

弘　高木外記

妻

生於江戸
明和五戊子七　酒井二百俵蔀
為中奥使
安永七戊戌十一廿一卒年
于弘達院仁昌老国居士

弘　高木新之助

弘元　寅　太田新十郎　山号室
寅母

生於甲斐

生永　年
為家業
天明　年　　酒井二百俵
為家督相續

弘　高木仙義元　寅　山本仙義　男
寅母

女子
母
女子
嫡

高木 書図之河 紋違鷹羽

都筑孫十郎
敏遠

正保 都筑孝五衛門

某 都筑孫十郎
号高木孫兵衛

某 高木六兵衛

寛永十二年乙亥生於江戸
慶安二年己丑十二月六日大御番
寛文二年壬寅十月六日御納戸同七年丁未二十八新番
寺山藤左衛門組同八年戊申十二月五日御足高五十俵合二百五十俵
同九年己酉閏十月八日依上々勤賜金三枚

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

元禄十四年七月二十八遠流

高木左衛門

某

女

生於江戸
天和三年正月十四日始　御目見献鳥目一貫文
同七年冬九十五部屋住　兄大炊助　某津国内有住賜
二百俵　同年十二月廿一日大坂住番御暇賜領十枚
同四年十月九日元禄二年閏五月廿一日大坂住番御暇賜
同七年冬十月廿八日新同五年正月廿六日依住番加俸
同年冬十月廿六日新同六年八月大坂住番
同十一年冬十月廿一日大坂住番　同十二年九月五十石
同十四年七月二十八日遠流

某

高木源五左衛門

智

元禄十四年七月二十八依父罪領山名隠

某

女

高木新次郎

元禄十四年七月二十八御船手九鬼五郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

清和源氏今川流

高林　本國三河　紋丸内五枚笹立ノ桐
　　猶紋杏葉字

吉利　高林市左衛門
　　生三河
永禄十二年六月廿四日
大神君ニ謁シ奉リ
附中依代官賜ハル
文禄五年申正月廿日
従五位下侍従ニ叙任
同十六年辰ノ年
三月朔日
卒ス加藤喜之助
　　女

吉次　高林市郎左衛門
　　生三河
　　始弥市郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

慶長年中壽仕
台德公賜父遺領四十石
當前年組元和八年壽六十九歲

利春　高林河内守　招彌市郎
實島田陣屋利正男

慶長十年乙巳生江戸
元和二年丙辰爲奥州
大猷公御小姓賜四百俵組
甲子十二班也後爲御歩行頭又爲御書院番
組後年爲御先手鉄

利之　高林弥一郎
妙

寛島治左衛門元能女

生江戸
承應　年
于治二年癸巳七四爲御書院番渡邊冊後
寛享四年丁卯三十爲小人頭元禄三年庚午十五爲伊豆
下田奉行同九年丙子四四爲御先手御鉄炮頭同七年甲寅
宝永元年甲申八十二爲三奉行正德二年壬辰六十五致仕

妙宝寺衆二三屋布改同六年丙午
二十九日死　妙春之祖父也

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子　溝口孫左衛門勝壽

女子　溝口左門友勝妻

利武　妣高林與七郎

妣同

生江戶

天和三年癸亥九月五部屋住為御書院番

賜三百俵元祿元年戊辰六月相阿御番

同二年己巳正月一為御小納戸同年九月五為中奥門

大久保玄蕃頭組同三年庚午五十人御番高家永嘉

同九年丙子七月為御書院番頭組

同十二年己卯十二月九日致仕

号清庵院嫩義山道孝居士

寄慈照院

妣同

脇部又左衛門女

壽

元祿十年丁丑六月廿日

右溝口勝封妻

勝封　溝口主殿

妻

元祿三年庚午七月九日組

利安　高林七三郎

妣

市左衛門

生母
元禄十三年庚辰七月廿日三百俵前同而御先中列座
相模守傳ク 高木善佐衛門 杉本平三郎須組
宝永五年戊子三月五日 御書院番 杉浦内蔵允組
正徳二年壬辰廿五日 永又家督 千三百十四石 前同
御先中列座 林元恭馬守傳ク 御小姓組 千七百十四石
享保十年乙巳三月六日 屋敷改同十一年丙午十七日
御役番同十五年庚戌六月廿五日 先手御鉄砲頭
同十九年甲寅五月廿三日 御役被 召放 高千七百十四石
減 筑前守賜ク 閉門 高木善佐衛門 歌島ニ配
同年十二月六日 閉門 御赦免 延享三年丙寅正三位
御目見 宝暦十年庚辰廿九日
宝暦十年庚辰正二双
寺侍六年丙子十二月廿九日
善国寺ニ而高岳院宝山賢居士

集
女 高林七之助
妻岡野

集
高林千之助
実 栗方吉衛 勇
寺侍十六年丙子四蕃子

延享三年丙寅二月廿九日
善国寺ニ而高岳院梅堂
淨薫居士

文禄六年酉六月廿九日
善国寺ニ而浄光院啟白峰
智圓大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

利貞　高林又十郎
寛永諸紫左変一有
實母
妻ハ神奈山田新六郎直ナ
女子
延享二年乙丑八十九為養子直松幸延時従
寛延二年己巳七月九家督相続
松子左近将監傳ヲ為中書侍従
家相伝禮式銀馬代宝暦七年丁丑為御書院番
大久保下野守組天明六年丙午十二月十九日
于聖諦養利貞
妻同墓

利見　高林　満助
四山田新六郎直寛女
妻安中牛組水野一八ナ
生男子
天明六年丙午十二月跡目
同年十五歳
于満考院秀山徹心居士
寛政
女子
留
仟使番
汁桐長兵衛
妻

利長　高林市左門　始五郎吉

妙永野一八　女

妻以後書斤相長兵衛　女

明和九年辰寅生江戸
天明七年丁未六六歳目為小普請支配山城守地
寛政十二年庚申三十二為御小性組番入為大隅守組
二男　左高源左衛門　養子ニ遣ス
三男　堀田彦三郎　九年五歳ニ而為御養子
十方石余ニ而
御出生養子

昌　女子

高林辰之助　男

高林隆輔　女
妻以後相長兵衛

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子
昌

高林陳兵衛
昌　始権七

生母　元禄四年辛未六廿五新規為相間御奉
新規為御中臈被賜采邑信濃村内
正徳二年壬辰六十五同姓市左衛門家督相続時
五百石

高林藤四郎
寅
寅年

事跡取物留　女

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』 請求記号 838-116
ガラス使用

享保十七年子九月五日病
於下屋敷傳之為小普請
菊間縁側衆

清和源氏

高林

本國甲斐

紋松菱

昌重　高林又十郎

生甲斐

若年寄仕武田信豊為近習後仕勝頼後近習列
同十年壬午甲州乱後却居於其地
寿仕
大神君入国初賜采地
台徳院様大御番元和三年丁巳五十二歳卒于本地
嘗居山梨考寺号外翁雪教居士

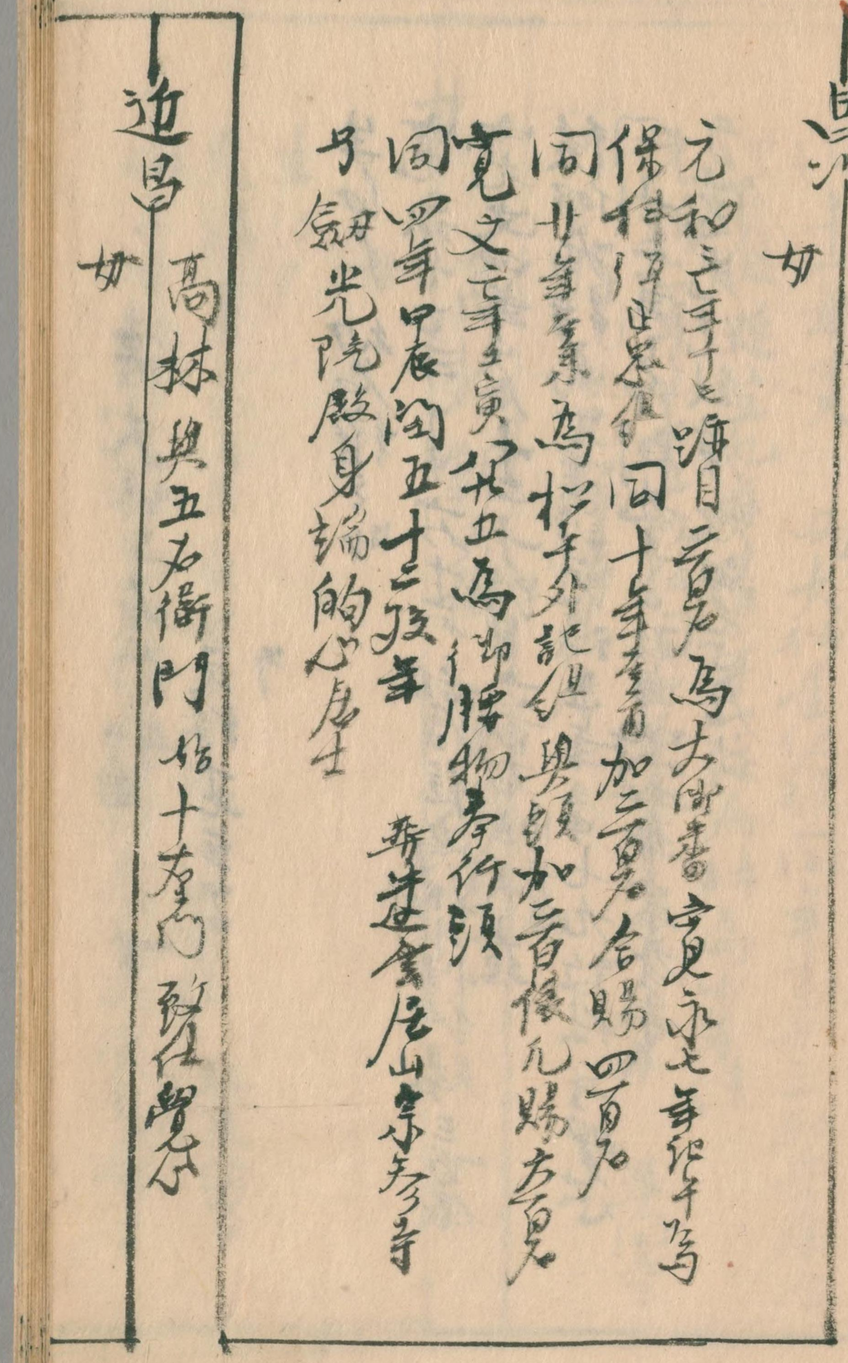
直次　高林太郎兵衛
　　實勝部太郎左衛
　　養子往仰實子生為別家賜三百十石為大御番
　　組殿頭組

利春　高林太十郎
　　妻

　　生於尾
　　寛永　年　　部屋住為
　　同十七年三月五加二百石并賜四百石

高林竜之助
　　妻

　　明暦元年乙未十二廿一跡目



国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

妻犬塚平右衛門女

生母　幼名權之助
寛永廿二年甲申六十六
寛文四年甲辰十二十四日
後仍牒辞為出家詳元禄五年壬申七九致仕
同十七年甲辰九十二廿三日
于徳光院殿演燈覚心居士

隆昌　高林與三左衛門
女

自常新規為大御番賜三百俵
寛文九年己酉閏十十六依上々勤賜金三枚
同十二年壬戌　為大御番組頭同年十二廿三加三百俵合
四百俵延宝九年辛酉二廿一依病辞為小普請
元禄二年己巳七五致仕同四年辛未十二十廿四日
于到岸院殿元歸隆昌居士

某　高林新兵衛　與惣左衛門
女

生母
元禄二年己巳七五家督四百俵為小普請
同十二年庚寅十二十四為大御番組村右衛門組

高士書詩 同部曲改高祖同十四年七十二斬罪

某 高林孫太郎
　女
元禄九年四月二十五始 御見同十四年七十二歿

某 高林政次郎
　女 同
元禄十四年七十二仍父咎遠流依幼少領之

某 高林彦之助 女同
元政次郎 同跡

高林小左衛門 女同 始與兵衛

生江戸
寛文二年辛卯十九新規 高御書院番仕 組頭
同五年乙巳賜三百俵 同十二年壬寅 五十七致仕 享保二年丁酉歿

高林新左衛門
寛
寛女

吉左衛門

生江戸

寛文十二年壬子七八歳同日三百俵為小普請
元禄十七年甲辰三十六為御書院番小出播磨守組

高林主殿　武之助　小左衛門

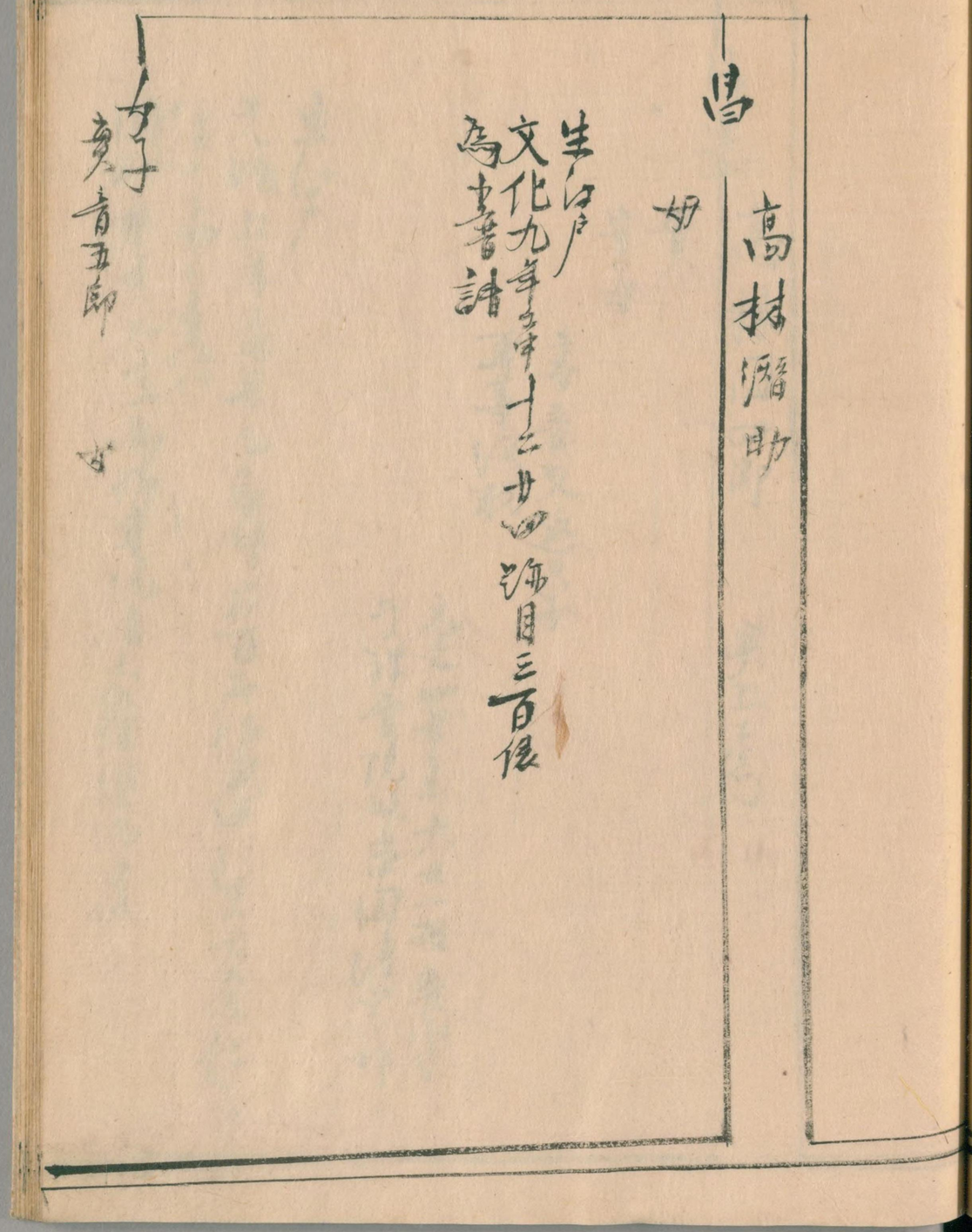
母

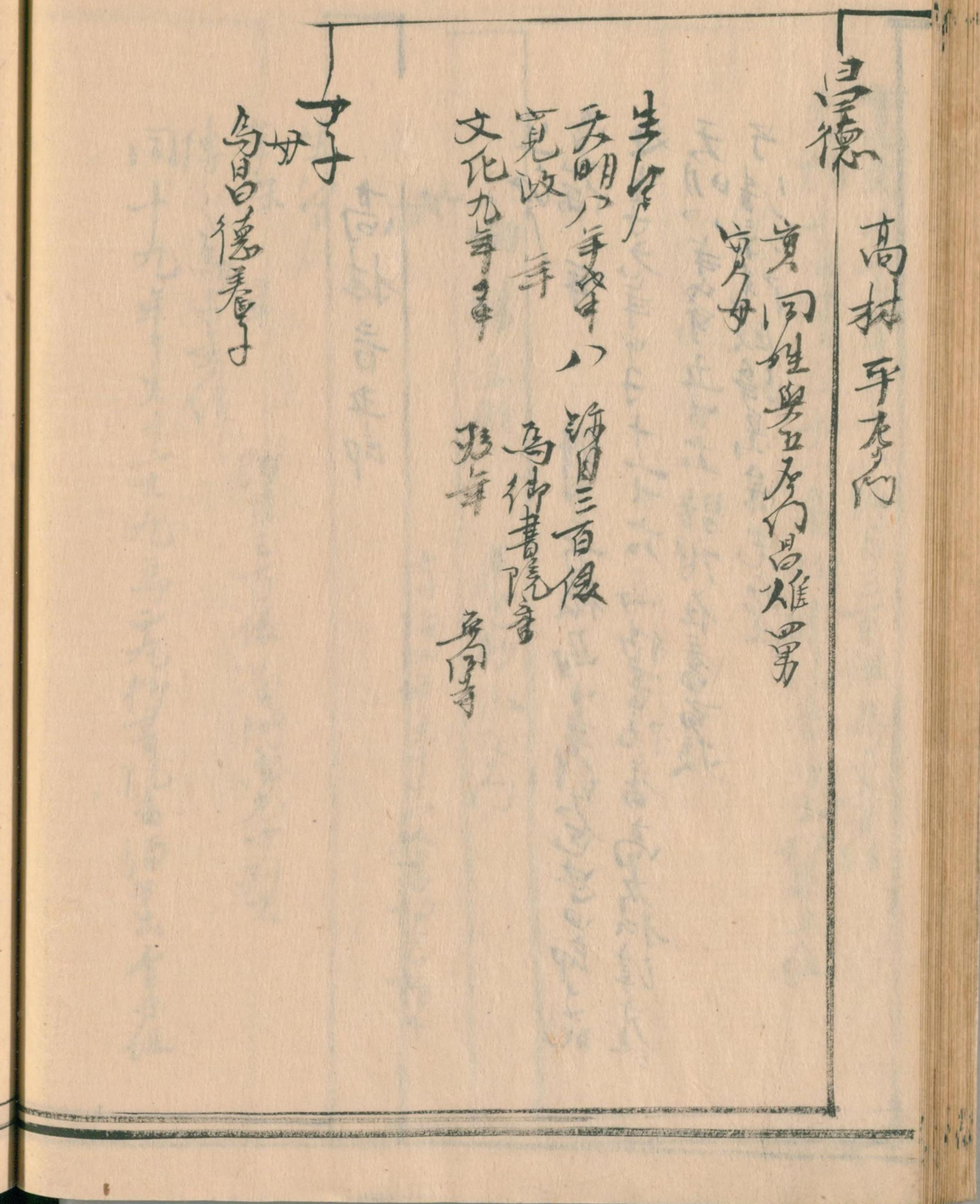
生父
宇保　宇　源四郎　同日三百俵為小普請
傳之為小普請　同断
同十九年丙戌十一月九為免御書院番酒井出雲守組

高林吉郎

母

生父
寛保　年　踏月三百俵為小普請
延享元年甲子十一月六為御書院番高力摂津守組
天明八年戊申五月六　勝附在番而歿
于清涼院殿浄岳宗光居士





国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

昌豐 高林四郎

實

實女

壽養又近昌豐

再壽浅羽

元文四年京六九一改券圖書

守祥雲院殿臣四清之春

奥五番

生母

元禄五年己申七九家督之

傳之高中壽清

同八年乙亥廿二為御書院番大久保淡路守

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

子保十年己七廿四歿葬
于歸雲院殿古墓地左上

女子 母 春子昌豊妻

女子 昌

元禄十二年卯閏九月廿五歿葬
同寺于清雲院殿月岡妙鏡尊
尊子二男一女共夭葬
于源勝寺

昌雄 高林勘助 妻 妾

奥五左門

某

生永三年丙午生
享保十年己十三歿葬于伊賀寺傳云為中興開山十三年戊申九十三歿
法諱為善清信士
安永五年丙申三月八歿年八十三葬于雲居寺
文禄十三年甲辰二月廿三日歿葬于指月寺子孫

寺石摂津守 妻

覚政七年丙午六月廿五歿葬
十九妻同
于去知院殿本光日誉尼

家近衛殿下村重勘助 女

享保十年乙巳六月廿六日歿葬于雲龍院殿信光日望
尼
元禄十三年庚辰二月廿三日歿葬于指月寺子孫

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

女子

昌 高林主馬
實山名因幡守豊就三男
女
妻下村主水介女

生江戸
宝暦十三年癸未十二月廿八日
賜三百俵
安永五年丙申 病日 盲名
天明六年丙午 閏十一月廿五日
于心悦院殿大方智観居士

女子
女

宝暦二年壬申九月廿九日
于雲光院殿玉峯妙書禅尼

定堅
女
名倉幸之助
女

安藤監物
養子

為屋敷名倉主水介
養子

昌徳
女
高林平馬

為高林音五郎
養子

子
女

岡部熊次郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

高木又十郎
母 法豊

寿町野傳左衛門 初名
女

生没
天明七年十月二十七歳日
傳く為中妻ゟ

始陸太郎
改仁

高林孝哉
嵩

女子
嵩

寛政五年癸丑正月廿四日
号嵩陰厳玉翠梅童扁

高村卯之助
嵩

女

高村又五郎
母 町野傳左衛門 如初

生没
文化 年
六百石 内十六石一斗九升 外八十三石三斗八升
家督
九年癸申十月廿日
武州埼玉郡 嵩高
上綱河原郡 九十石三斗
相州鎌倉郡 四百石
二百六十石八斗

女子
智

曽根八十次郎

高林　李國近江　紋

次郎　高林次兵衛
生涯
慶長年中奉仕
台徳公為勇功御感賜百五十石
移賜加右如件

次吉　高林次郎左衛門
生涯

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

文跡目二百石
寛文十二年壬子六朝殁葬于
号法性院宗澗日是居士

次之　高林百安　源太郎　左衛門　始改郎右衛
　女　寛文十二年壬子十五歳寺回寺
　　号慧性院妙澗日都女

生ル
寛文十二年壬子七十二跡目二男
元禄十二年卯寅十二五歳寺回寺
宝永二年乙酉二月五歳寺
号是性院相圓日通居士

次琉　高林権左衛門
　墳墓原養湖
　寛分

生ル
元禄十二年卯寅十二五歳寺回寺
小笠原佐渡守傳之

女子　真野文大夫　寺
　候妻

次緣　高林次郎兵衛
實真野文大夫之後三
實女高林次郎女

生子
享保元　孝智二男

享保十九年甲寅八月四日歿年四十八法圓福寺
号智覺院壽進日恵居士

師次　高林孫二郎　伯耆守藏助次郎兵衛
實　町醫師貝津宗固　二男
妻女　町醫師石上長春女

妻養父次緣看女
正徳二年壬辰生子
享保十九年甲寅　師目三百石并筒御先手列
傷ニ而歸事

宝暦十二年壬午八月九日歿年五十五才法圓福寺
号篤信院義忠日進居士

子
長男　早世
二男　真野喜太郎　幸次郎
三男　師次等

為次　高林内藏助　次郎兵衛　孫三郎

寛田安付山中七左衛門云祖二男
寛文内藤友右衛門助政女

生出
宝暦十二年壬十一　跡目二百石
為中妻給
天明八年戊申九十六　金田和尊子配時為小十人久松
忠次郎組　寛政四年子九十而咄上而大納言覚物
時能二文化二年乙丑八三為兎新御番

次男　高林健次郎
寛文
寛延
山中左藏義信二男

女子
廿

清和源氏

高尾　母国甲斐

紋花菱

甲斐源氏武田支流

信俊　高尾　九兵衛

生甲斐文

住武田信玄勝頼

信君　高尾伊賀

住勝頼早刋而生

昌俊　高尾惣六郎

生甲州

住勝頼天正十年三月勝頼亡後匿山林

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

文禄元年辰閏九月辛
大神君賜倉邑而奉仕
烏徳云為大御番

嘉文　高尾宗十郎　想兵衛
　母
　　寿昇院助春尼清健女

生於甲斐国
賜父跡三百石寛永元年甲子月日
大御番同九年壬申　忠長卿配流時蟄居同十巻首
賜月俸若　同十一年甲戌十二廿七　御赦免被召返

慶安三年庚寅年三月御廣敷番頭
万治四年辛丑三五告光徳為小普請
寛文四年甲辰十十八致仕
号仙壽院孤雲宗徳居士　　駿河大納言忠長卿

忠正　高尾勘兵衛
　生甲斐文

寛永元年甲子駿河大納言忠長卿
同九年壬申　卿配流時蟄居

信正　高尾左太郎

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

長幸　高尾吉兵衛
　母某氏助孝公侍女
　生弐男
　寛永十二年乙亥初座住為大御番場二百俵
　同十九年壬午六月與鈴木三郎左衛門令口論伐斃之而
　出奔

女子
　松田七郎右衛門
　妻

文薫　高尾兵大夫
　母同

妻　御書院番内藤松崎惣左衛門娘純子

生於江戸
寛永二十年癸未六廿二
賜三百俵明暦四年戊戌七十九
組御足五十俵九賜三百五十俵
寛文四年甲辰十二月賜目三百俵自願本俵
延宝八年庚申十二廿五告病辞為小普請
同日致仕宝永四年丁亥七廿九歿年　寿音羽町
洞雲寺号踏光浄観老禅徳

慶安三年庚寅十二月廿七
号端雲浄的禅定門

妾　高尾傳七郎

高尾　真一郎
政好　如同

生江戸
万治二年己亥六九始　御目見
寛文七年丁未十二廿一新規為大御番
賜三百俵延宝四年丙辰十月廿五
号清祥院殿端山名浄禎居士

寿月往寺

妻　高尾　源左衛門
信仍　実岡野擁左衛門娘　阿波守
実母　実明三男

妻小泉兵庫　女

生没
延宝四年丙辰十二月十二日
同五年丁巳正廿五為大御番
同八年庚申九月九日
天和三年癸亥三朔二隊在番
同年六月一為御藏奉行
并方御納戸頭同年十二廿一加百俵
同六年癸酉十二月十八加二百俵
同八年乙亥二廿一為小普請下番頭加三百俵合賜六百俵
同十二 解諸大夫法印寿
宝永八年辛卯四月二致仕賜三百俵
正徳二年壬申十二月廿二
与高岩院殿徒従列同獨耀寿月尽

信有 高尾織部 源左衛門

妻

継妻

生没
元禄五年壬申十一月廿日 御目見
部屋住為御小性組
同八年乙卯四月二家督二百俵
傳之 寛保二年壬戌七月廿日
与嵩禅新性巌道見居士

宝永二年乙酉七月廿九日
于鈴谷殿見光離相
元文二年丁巳十二月九

国野彦五郎

妻

元禄八年乙亥十二月五日 御目見

女子
妻

飯室與兵衛
妻

信
女
高尾主馬

元文四年乘二十四改葬
于檜梅院殿一點蒙免屋
女子　石巻三左衛門康則妻延享三年申午九廿七
信憙　高尾孫兵衛
實柳生播磨守久壽二男
實母嫡　宝暦五年乙未七廿三死寿四
宝暦五年乙未七廿三死寿四
与良祥院殿閑室端居士

妻安部主計頭一信女

生ル
元文四年己未六四養子
寛保三年癸亥九　歸国
宝暦元年辛未二七為御
同十三年癸未正廿八為御
明和　年　為御
為御持ノ頭寛政元年己酉七廿一為新御番頭

女子
母

女子
母

女子
母

童形
母

外之助
母

明和四年丁亥十二月廿五日寿四才
号指雲院寛林妙香童子
明和四年丁亥二月廿五日寿四才
号香岳玄芝童女
明和七年庚寅十二月廿九日寿四才
号玄節妙貞童子

安永六年丁酉四月廿五日寿四才
号清巌桃童子

安永七年戊戌十月廿六日寿四才
号寒月妙霜童子

信女

高尾九兵衛
母

喜美濃部氏討死

寛政元年己酉八月一日俗名
同二年庚戌十月十六日戒名

生母

信保　高尾學之亟　肉

母

生没

文信　高尾勝三郎　宗十郎

母松崎惣左衛門是繩女

生没

延宝八年庚申十二廿五蒙賜三百俵為小書詰大多保
山城守組同九年辛酉二廿六為大御番池田善九郎
元禄九年丙子八十九為御藏奉行同十二年己卯十二廿二加二百俵合
為大御番組頭同十二年己卯十二廿四依病辞為小書詰
賜五百俵同十五年壬午十二廿五致仕
大久保玄蕃頭組宝永二年乙酉七十七致仕
同四年丁亥七十九卒

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

信敦　高尾陳次郎　惣十郎

妻

生江戸

宝永二年乙酉七歳家督五百石為中書番詰被召出

同七年庚寅十一月為御藏奉行

享保五年庚子十二月痛肺為小普請有馬

内膳正配　同七年壬寅十二月廿二致仕

同十三年戊申十二月廿四改名

号命徳院殿可休淨機居士　寄阿弥寺

信秀　高尾陳次郎　惣十郎

妻　服部平左衛門正房女

寛延二年己巳二月廿六致斃　高野

号光壽院殿梅智芳香大姉　宗参寺

生江戸

享保七年壬寅十二月廿二家督五百石菊間縁側御番

列座水野和泉守傷之為小普請有馬内膳正配

同九年甲辰二月廿二為大御番

宝暦二年壬申十二月七為御小性組番頭

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用

同四年甲戌七十八歿年
号泰嶺院殿智鏡照山居士

信福　高尾弥次郎　妙誓寺
妙服部平八郎母
宝暦十年庚辰十廿七歿葬同寺
号瑞光院殿妙意信女
妻櫻井監物娘秀女

惣十郎　伊賀守
妻同人女
安永十年辛丑四十二歿葬同寺
号清光院殿理性知順大姉

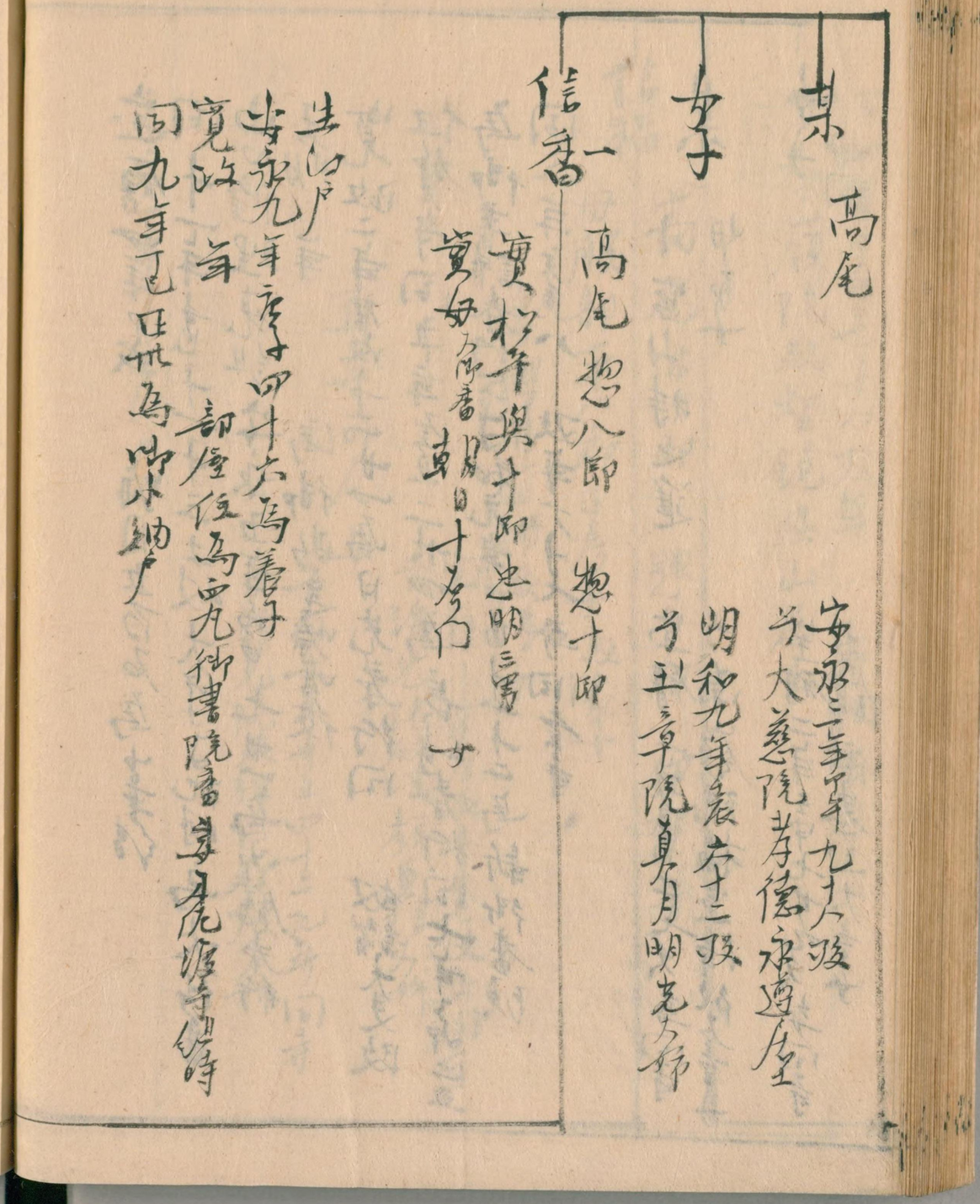
元文二年丁巳生ル

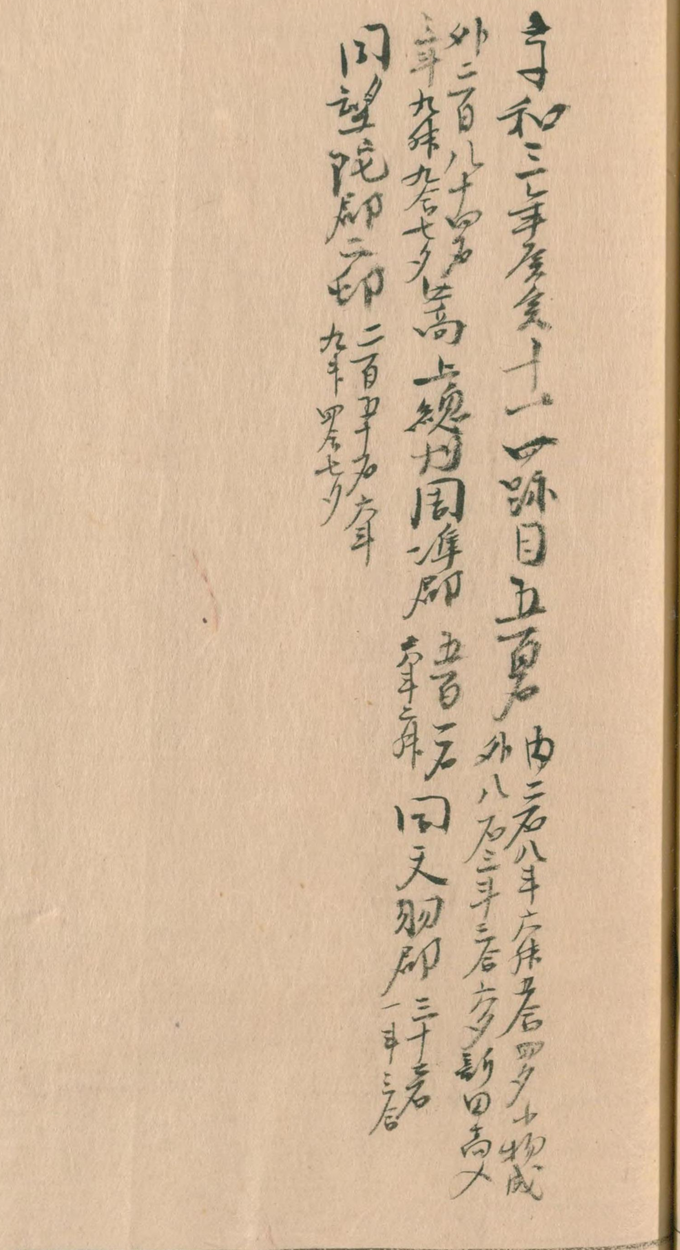
宝暦四年甲戌
同十二年壬午十一月十三日五百石ヲ以大学ヲ配時ヨリ為大御番
山口修理亮組
安永五年丙申七廿一ヨリ為小膳奉行
五月　年
為御勘定吟味役
寛政二年庚戌十二廿一為日光奉行同
仕旗本同五年癸丑二廿四為長崎奉行同七年乙卯二五
為御普請奉行寺社
同十二年壬午十二為新御番頭
同二年庚戌八　致年六十七寿同寺

某　小宮山時之進　妙寿寺
妻　女子　同

宝暦二年壬申七廿九歿葬同寺
号南嶺院梅室浄馥大姉
宝暦二年壬申七廿九歿葬同寺
号錦袖惠玉大姉

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用



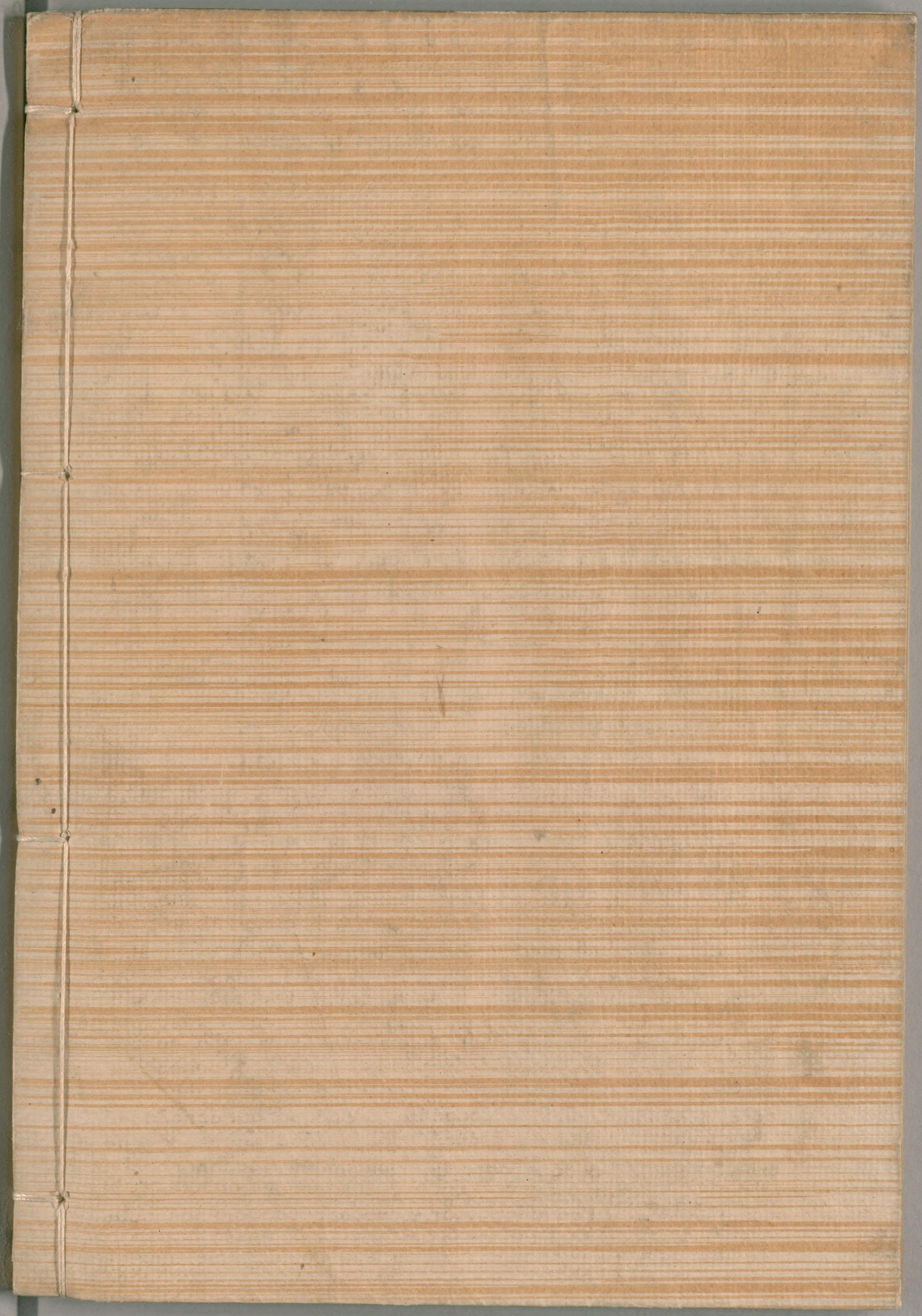


国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116
ガラス使用

838
297
116

国立国会図書館　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『本朝武家諸姓分脈系図』　請求記号 838-116

ガラス使用